

リウマチ膠原病内科

リウマチ膠原病内科部長 深谷進司

◆ 診療体制と患者構成

診療科スタッフ

深谷進司：リウマチ膠原病内科部長（常勤）

本田文香：非常勤（筑波大学膠原病リウマチアレルギー内科助教）

川島典奈：非常勤

指導医・専門医・認定医等

深谷進司：日本リウマチ学会指導医・専門医、日本内科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医

本田文香：日本リウマチ学会専門医、日本内科学会認定内科医

外来診療実績

2021-2022年度実受診者数 1307名

延べ受診者数 5844名

主にリウマチ性疾患と膠原病を診療している。

【実患者数】

関節リウマチ490名、変形性関節症72名、原発性シェーグレン症候群53名、リウマチ性多発筋痛症82名、ベーチェット病23名、血管炎症候群17名、全身性強皮症21名、RS3PE症候群24名、SAPHO症候群10名、皮膚筋炎/多発性筋炎12名、線維筋痛症20名、IBD関連関節炎6名、分類不能脊椎関節症4名、成人スティル病5名、全身性エリテマトーデス28名、抗リン脂質抗体症候群2名、Sweet病1名、混合性結合組織病9名、乾癬性関節炎10名、掌蹠膿疱症性脊椎関節症10名、痛風および偽痛風9名、強直性脊椎炎1名、IgG4関連疾患8名、反応性関節炎4名、自己炎症症候群2名、その他（関節痛、抗核抗体高値、RF高値など）384名

入院診療実績

延べ110件

リウマチ・膠原病関連81件、救急・一般内科関連29件。

リウマチ・膠原病関連81件のうち、原疾患の治療目的が36件、合併症治療が40件、精査のみが5件。基礎疾患は関節リウマチ27件、皮膚筋炎・多発性筋炎2件、全身性エリテマトーデス8件、血管炎19件、ベーチェット病6件、リウマチ性多発筋痛症5件、その他16件

◆ 診療科紹介（概要）

リウマチ膠原病内科は主にリウマチ性疾患と膠原病を診療している。最も多く扱う疾患は関節リウマチである。関節リウマチの薬物療法は劇的に進歩してお

り、薬物療法を最適化することにより約8割の患者が寛解あるいは低疾患活動性を達成している。メトトレキサートや生物学的製剤、JAK阻害薬などが治療の中心となるが、患者の身体的状況、費用負担、投与方法を考慮して最適化している。関節リウマチは間質性肺炎や気管支拡張症など肺合併症や、シェーグレン症候群や甲状腺疾患など膠原病合併例も多く、内科的な全身管理が必要な疾患でもある。多くの薬剤に免疫抑制作用があるため、安全に治療を継続していくために投与前の感染症スクリーニング検査、日和見感染症に対する予防や監視を行っている。他の診療科と連携しながら、責任を持った対応に努めている。

一方、関節炎改善後にも痛みが残ることは少なくない。その原因は関節内の骨びらんや軟骨の減少による機械的な痛み、手指や足趾変形を背景とした関節周囲の筋肉・腱へのストレス、冷えによる痛み、神経痛など多岐にわたり、それらを適切に捉え機能維持・改善させるために、リハビリ、装具療法、フットケア、手術などを多職種と連携し推進している。発症前の、本来の生活を取り戻し、やりたいことが叶えられるようにお手伝いをしている。高齢化に伴い生活が困難になった場合には、いったん入院して在宅調整や療養先調整を行う。

膠原病領域では、関節の痛みやこわばり、原因不明発熱などの症状や、抗核抗体やリウマチ因子など自己抗体高値などの検査値異常について近隣医療機関や院内からご紹介頂くことが多い。これらの中から膠原病の診断がつくこともしばしばある。多臓器にまたがる全身疾患であるため各科との連携が重要となるが、院内で診療科が充実しているため検査・治療までほぼ一貫して診療を受けられるのが強みである。重症例・希少症例は筑波大学附属病院と連携して診断・治療を進めている。

◆ 医療の質の自己評価

医師は患者一人ひとりの訴えをよく聞き、患者が抱える問題の全体を把握し対応するように努めている。患者にとって重要な判断を行うときは患者医療者協働意思決定の考えに基づき対応している。近隣のプライマリケアの先生方からのご紹介に対しては専門医として少しでもフィードバックできるよう丁寧にお返事し、信頼関係を築いて行けるように心がけている。メディカルスタッフはリウマチ財団認定のリウマチケア看護師2名をはじめ、院内学習会等を通じてリウマチ性疾患や薬剤の特性について研鑽に励み、充実した自

己注射手技指導や服薬指導を提供している。コロナ禍にあって患者向けの院内講演会は開催できない状態が続くが、リウマチ通信（WEB版も追加した）を発行して患者自身の自己管理や知識向上を支援している。医療圏が重なる筑波大学附属病院のスタッフとも日頃から連携をとり、大学病院で落ち着いた後の後方病院としても機能している。

◆ 学会発表・論文など

学会・研究会発表

- 2021年9月15日筑波呼吸器勉強会「関節リウマチの治療と最近の話題」 オンライン
- 2022年2月17日茨城県臨床整形外科医会学術講演会「関節リウマチとリウマチ性多発筋痛症の類似点・相違点とIL6抗体製剤のポジショニング」 深谷進司 オンライン
- 2022年3月12日 関節リウマチWEBセミナー「RA治療選択肢が多くなった今、どう説明し意思決定するか」 深谷進司 オンライン
- 2022年3月22日ジセラカ発売一周年記念講演会 in つくば「当院の関節リウマチ診療におけるJAK阻害薬の位置づけ」 深谷進司 つくば市
- 2022年6月16日 県央リウマチ連携ミーティング「バイオ・JAK阻害薬4クラスそれぞれのわかりやすい特徴－個別化医療のために－」 深谷進司 オンライン
- 2022年7月29日 リウマチケア研究会「外見に対する引け目をなくし床屋の再開を目指した一例」 松本一香、内海裕之、作田直記、深谷進司 つくば市

◆ その他

2021-2022年の取り組み

- ①関節リウマチのキードラッグであるメトトレキサートやステロイドの誤薬防止のための服薬指導、患者指導用資料作成をリウマチケアナースと協力し行っている。
- ②過去にリウマチ通信に載せた内容をオンラインでも閲覧できるよう、WEB版の制作を開始した。
<https://sites.google.com/view/rheumatoinfo/home>（2次元バーコード参照）

<終わりに>

コロナ蔓延以来生活スタイルが変わってしまった。コミュニケーションのオンライン化が進むなど便利になった半面、患者さんの閉じこもりによる体力低下や、メンタルヘルスの低下が懸念される。このことは免疫

抑制作用のある薬剤を使用していて感染症を警戒している患者さんにとって重要な問題であり、自宅でもできる運動を促すなど、ふだんの生活背景までコミットする診療を提供していきたい。リウマチ診療は関節の触診や血液検査による評価が重要で定期的な来院が必要だが、病院滞在時間は減らす努力をしていきたい。ふだんから患者さんを適切にご紹介いただいている医療機関の関係者に深く感謝します。

